

教科等研究会（小学校特別活動部会）

平成29年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

ともに生きる力を育む特別活動のあり方 ～学級活動における「分かる・できる」「楽しい」授業をめざして～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	講師	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
6月 8日	10名	御船中 学校	8月 2日	益城町 ミナテ ラス	村田裕 紀主幹 教諭	10月 3日	益城 中学校	田上 大太郎 教諭	12月 8日	広安西 小学校	小谷 由貴美 教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 主題設定の理由

教育をとりまく今日的課題の一つとして、社会や家庭の教育力の低下があげられる。子どもたちに基本的な生活習慣や態度が身に付いていない、他者との関わりが苦手である、自制心や規範意識が十分に育っていないなどが指摘されている。少子高齢化・高度情報化等により、人間関係が希薄になり、社会性が薄れ、自己中心的で生命を軽視する青少年の問題行動も懸念される。

特別活動は、集団による実際の生活や体験活動を通して、よりよい生活や人間関係を築く力、自主的、実践的な態度、望ましい集団活動の方法等を身に付けていく教育活動である。このことを踏まえて研究テーマを設定し、研究会で共通実践していくこととした。今年度のテーマは、「ともに生きる力を育む特別活動のあり方～学級活動における「分かる・できる」「楽しい」授業をめざして～」とした。それは、研究を通して、より質の高い集団を目指すことを実践していくという趣旨からである。そして、サブテーマも、日々の実践の中で、集団を育てることと児童一人ひとりを育てることの両立があってこそ、特別活動の目標の達成に近づけることができる、と考え設定した。

「児童一人ひとりが輝く」場面を設定し、児童個人と集団の力を付けていくことを目指して研究及び実践を進めていくこととした。

② 主題の分析

(ア) メインテーマについて

「ともに生きる力」とは、望ましい集団活動を基盤とする特別活動においては、「ともに考え、ともに表現することによって、集団としての考えや表現を生み出す力」である。具体的には、学級の課題について、子ども同士がお互いの立場を尊重しながら、自分の考えを主張し話し合う中で、課題解決のための目標と具体的な手段・方法を集団決定し、協働して集団活動を創造していく中で培われていく「ともに生きる力」である。「ともに生きる力」を構成する主な能力は、課題発見力・話し合い力・人間関係構築力・問題解決力・規範意識・役割意識である。友達と共に意見を出し合いながら合意形成を図り、意義ある活動を生み出していく特別活動を通して、「ともに生きる力」を育む特別活動の授業のあり方について研究及び実践していくことは、大変意義深いと考える。

(イ) サブテーマについて

学級活動における「分かる・できる」「楽しい」授業とは、以下のように捉え研究を進める。

サブテーマの分析	めざす児童の姿	研究の視点
学級会活動における「分かる」とは	①話し合いの目的や内容がわかること。 ②話し合いの方法（質問・意見の出し方）が分かること。	「分かる・できる」「楽しい」学級活動 <視覚化>
学級活動(学級会)における「できる」とは・・・	学級活動の活動を通して適切な評価活動を行うことにより、自他のよさや達成感を実感し、「できる」という自覚を持つこと	○合意形成のプロセスを大切にする。 (板書の構造化) ○個人と全体の思考の可視化
学級活動(学級会)における「楽しい」とは・・・	①話し合いで支持的風土ができていて楽しい。 ②実践活動で一人ひとりのよさが発揮で	<焦点化・共有化>

	きる話合いだから楽しい。	○学級目標、提案理由を意識させる。 ○話し合う内容（話合いの柱）、話し合う目的（提案理由）を明確にする。 ○全員参加型の工夫
--	--------------	--

※「分かる・できる」「楽しい」という一体化された表記から、両者は「分かる・できるから楽しい、楽しいから分かる・できる」という相互関係で研究を進める。

③ 研究の仮説

仮説１：学級活動（学級会）における「分かる・できる」授業実践を工夫することで、学び合いや高め合いの態度が形成され、“ともに生きる力を育む”ことができるだろう。

仮説２：魅力的な議題や、一人一人の意見が大切にされた「楽しい」と思える学級活動（学級会）を展開することで、よりよい人間関係を築くことができ“ともに生きる力を育む”ことができるだろう。

(2) 成果と課題（○成果・▲課題）

○学級目標の実現につなげることを意識した提案理由の作成、司会チームへの「話合いのすすめ方」の活用と事前指導、話合いの流れが分かる板書の工夫、集会活動の会順を明確に提示したことにより、クラスみんなが学級目標「なかよし」になるようにという意識が高まり、共に学び合い、高め合う話合い活動が行われた。

○児童から出た意見をもとにした議題の設定や事前に本議題についての自分の意見を持たせたことで、発表が苦手な児童が、話合いに意欲的に参加することができた。さらに、児童の意見を反映させるために、ペアトークや挙手による意思表示の手立ても、児童にとって有効だった。自己評価や相互評価の時間の確保、教師による児童の頑張りの紹介により、児童はお互いのよさを感じ取り、役割を達成したことに自信を持ち活動することができた。

▲議決の場面での、議決の方法や多数決について、発達段階に応じた説明と、どのように理解させていくかについては今後の研究課題としたい。

▲話合い後や活動後の自己評価や相互評価の項目や内容は、さらに工夫を重ね、より児童がお互いのよさを感じ取り、人間関係を深めていくものにするよう工夫する必要がある。

4 実践事例（広安西小学校 ２年４組 ３４名 指導者 小谷由貴美教諭）

(1) 授業の概要

児童の実態	①学級目標「なかよし～ともだちいっぱいいたのしい２の４ しっかりきくやさしい２の４ じかんないにたべるげんきな２の４」について、ほとんどの児童が学級目標を達成できるように頑張っている。自分のクラスが好きだと肯定的にとらえている児童がほとんどである。 ②学級会を好意的に捉えている児童が多い反面、自分の考えを発表することに苦手意識をもつ児童もいる。 ③係活動にも意欲的で、毎日の帰りの会で係発表をし、楽しく取り組んでいる。 ④毎月ミニ学級会や「ほかほか会議」（学級会）を開き、話合い活動に取り組んでいる。これまでに、他のクラスを招待したおぼけやしき大会や、１年生を招待しておもちゃまつり大会等を開いてきた。
本時の研究の視点	<計画> ①前回の集会活動「１年生といっしょに楽しいおもちゃまつり大会をしよう！」で出てきた振り返りを学級全体で共有化し、本活動につなげる。 ②前回までの活動の振り返りをもとに、事前に個人カードに自分の考えをまとめておき話合い活動への見通しをもつことと、全員が自分の意見をもって安心して話合い活動に参加できるようにしておく。 ③話合いで決めることを焦点化しておくことで、時間内に話合いが終わるように進めていく。 ④集会活動の会順を明確にしておくことで、実際に活動するときのことを考えながら意見を出すことができるようにする。 <話合い活動> ①計画委員会で、事前に個人カードに書かれた内容を把握し、全ての意見についての共通理解ができた状態（質疑応答が終わった状態）から話合いをスタートさせ、時間内に集団決定に至るようにする。 ②話合いの論点として、学級目標により近づくものはどれか、また、決められた条件（

	20分以内にできるもの)を満たしているか、提案理由に沿って活動かを確認しながら話し合いがすすめられるよう、適宜、教師の助言を入れていく。 ③話し合い後の振り返りとして、自己評価、相互評価、教師からの評価を適切に行う。 <実践活動> ①十分にリハーサルを行い、本番ではできるだけ教師の出番がないようにし、自分たちで成し遂げたという達成感を持たせられるようにする。 ②一人一人に役割を与え、チーム、また、個人として、与えられた役割を最後まで果たせるよう、進捗状況の確認や声かけを行う。 ③準備の段階でも「なかよし」に近づけるよう、友だちと協力して行っている児童を見つけ、認める声かけを行う。 <振り返り> ①活動全体についての振り返りを振り返りカードに記入し、個人の振り返りを行う。 ②良かった点、改善したい点、また、準備段階での反省について共通理解を図り、3学期からの学校生活につなげる。 ③話し合い活動の振り返りをグラフ化し、これまでの話し合い活動と比較しながら反省し今後の話し合い活動に活かす。
授業者自評	①今日の学級会では、児童がのびのびと話し合いができた。今まで発表できていなかった児童がペアトークなどで意見を伝えることができていた。 ②これまでの学級会ではたくさんの意見の中から一つにしぼる話し合いは、したことがなかった。一つの遊びに決まったことで不満は予想通り出たが、自然な姿だと思った。自分の思い通りにいかなくても、決まったことを力を合わせてやっていく力をつけてほしい。 ③児童の個人カードの振り返りでは、話し合ってよかったと書いている児童が多い。自分の考えを伝えるというめあての達成ができた。 ④相互評価では、友だちのどういうところを評価するか、スキルなどは今後の課題。
協議の内容	<質疑応答> Q：児童は、多数決をどう捉えていたのか。多数決のルールを捉えていたのか。 A：今回が初めての経験だった。あとあといい経験になると思う。決定後「え。」と言った児童が、今後切りかえて活動し、納得する実践にしていきたい。 Q：学級会後の活動の予定はどうなっているか。 A：月曜日に役割分担を行う。普段の学級の係をもとに、準備を進めている。決まった「じんとり」を中心にルールを決めていく係を作り、チーム決め、リハーサルと行っていく予定。 <協議> ①司会グループの進行が素晴らしかった。UD的にも、大きな視覚的に分かるタイマーの使用もよかった。 ②板書は、児童の意見の数が分かるようなマグネットの使用があり分かりやすかった。 ③児童が、参加しやすい議題でよかった。発表が苦手な児童も、ペアトークや挙手による意思表示等の手立てにより、意欲的に参加できていた。 ④先生の話で、児童のよい意見を紹介されたことが次の活動や児童の意見の参考となる。
まとめ 七滝中央小 大竹紳一郎 校長先生	①日頃の学級経営、事前の準備等が大変すばらしい。きちんとする時と、のびのびする時のメリハリがありよかった。 ②「話したい時に話すのではなく、自分の意見を言わなければならない時にきちんと話すことができる」児童を育てる事が大切である。聞こえなかった時や意味がよくわからなかった時に「もう一回言って下さい。」と伝えるよう指導していくことも大切。教師が児童の発言を繰り返しても力はつかない。 ③発言する児童は、分かりやすく発言しないといけないし、聞く児童は、しっかり聞かないといけない。発言しない児童と、複数回発言している児童がいる。全員が発言する手立てが必要。例えば司会者が「まだ、発言していない人を優先します。」という手立ても有効。意見を発表させる時には、話型を指導しておくことが大切。

(2) 学習指導案

目標：「なかよしに近づくために」という視点をもって話し合い活動に参加し、友だちの意見をよく聞いたり、自分の意見を言えるようにしたりして、合意形成を図ることができる。				
議題：「なかよし☆にこここパーティをしよう！」				
提案理由：2 学きさいごの活どうです。みんなでえがおになる、たのしいパーティーをして、もっと「なかよし」にちかづきたいからです。				
過程	学習活動	時間	児童の活動	発問・指示及び教師の支援と評価
見 通 す	1 はじめの言葉 2 役割の紹介 3 学級目標の確認 4 議題と提案理由の確認 5 先生の話 6 めあての確認	5 分	・今から第7回ぼかぼか会議を 始めます。 ・今日の司会は～さんです。 ・今日の議題は～です。 ・提案理由の確認です。～さん 提案理由をお願いします。 ・先生の話です。 ・今日のめあては～です。	・前回の活動で出た振り返りに触 れ、より良いものをつくっていこ うとする意識を高める。 ・計画委員で決めていることを再 確認して、話し合う部分を明確に捉 えるようにする。 徹底指導 (ポイント) ◎「なかよしに近づくように」「 みんなでえがおになるように」と いう視点を意識させ、提案理由に 沿った話し合い活動をさせる。
	7 話し合 柱「なかよし☆にこここ パーティであることをき めよう。」 計画委員会で決めている ことプログラム (案) ① はじめのことば ② 歌&ダンス ③ ? ④ プレゼントこうかん ⑤ 記念撮影 ⑥ おわりのことば	30分	B基準「集団の一員としての思考・判断・実践」(発表、観察) ○自分の考えを友だちに伝え、友だちの意見を最後まで聞くことができる。 A基準「集団の一員としての思考・判断・実践」(発表) ○提案理由に沿って自分の考えを発表し、友だちの意見を聞いて考えを伝え ることができる。 B基準に達していない児童への手立て ○机間指導で声かけをし、一人で言えないときはペアで発表をすることやペ アトークでは発言できるよう促す。	・賛成意見や反対意見にはなる べく理由をつけて発表させる 能動型学習指導 (ポイント) ◎個人カードを使い、自分の意見 を持って参加することで、児童の 主体的な話し合い活動ができるよう にする。
確 か め る	8 決まったことの発表 9 話し合いの反省 10 先生の話 11 おわりの言葉	10分	・今日のぼかぼか会議では、～ が決定しました。力を合わせて がんばりましょう。 ・友だちのがんばっていたとこ ろや、自分の感想を発表してく ださい。 ・先生のお話です。 ・これで第7回ぼかぼか会議を 終わります。	・自己評価、相互評価をさせるこ とで、自分や友だちのよいところ を見つける視点を育てる。 ・全体的な話し合い活動の振り返り と今後の見通しを話し、児童らが 気づいていないよさに気づかせる とともに、実践活動への意欲を高 める。